

2 吉田新田と運河の誕生

吉田川・新吉田川が流れていた周辺の土地は、明暦2年（1656）から寛文7年（1667）にかけて吉田勤兵衛氏が埋め立てたことから吉田新田と呼ばれています。

明治期から、吉田新田内の運河計画を立てられ、そのうち未整備区間であった新吉田川と新富士見川を群馬県出身の伏島近蔵氏らの尽力により、それぞれ明治29年（1896）、30年（1897）に完成しました。これにより、既に明治7年（1874）に完成していた堀割川を通して根岸湾から横浜市街地の中心部への航行が可能となり、吉田新田地域の振興にも寄与しました。

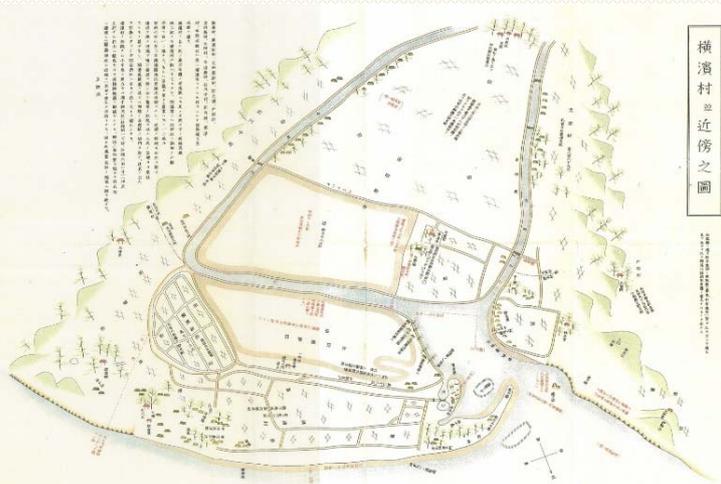
また、運河の整備とともに多くの橋が架けられ、そのうち蓬莱橋、権三橋、鶴之橋、千秋橋が明治5（1872）、6年（1873）に架けられ、明治30年（1897）頃に山吹橋、武蔵橋、長島橋、横浜橋、日本橋が架けられました。

C



伏島近蔵氏（ふせじまちかぞう）

d

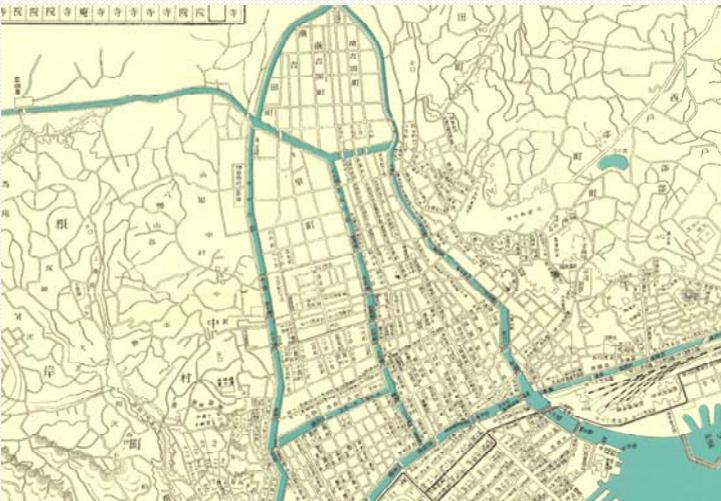


横濱村近傍之圖（嘉永4年（1851）頃）



左地図の説明。吉田新田内はまだ沼地や新田で、運河がないことが確認できる

e



明治42年（1909）頃の上と同じエリアの地図。吉田新田内に運河が完成しているのが確認できる



左地図の説明。阪東橋のみ大正15年（1926）10月新設。橋名は吉田川・新吉田川のみ明示した

引用 c：伏島たき[編・発行]、「伏島近蔵一代記」、昭和15年10月25日発行
 d：横浜市役所[編]、「横浜市史稿 附図」、臨川書店、1986年3月出版
 e：横浜市橋梁課所蔵

3 関東大震災とその後

大正12年（1923）9月1日に発生した関東大震災により吉田川に架かる橋梁は被災し、その後の復興事業で架替えが行われました。さらに、復興事業で阪東橋が新設されました。

昭和30年代に入ると社会情勢の変化に伴い、それまで栄えていた舟運も衰退し、モータリゼーションが普及していきます。また、昭和40年（1965）に横浜市六大事業が策定され、吉田川・新吉田川の地下部分には、高速鉄道（横浜市営地下鉄）の建設、地上部分は埋め立てられ、緑の軸線構想に基づく大通り公園の整備が行われたことで、昭和48年（1973）までに吉田川は廃止することになります。



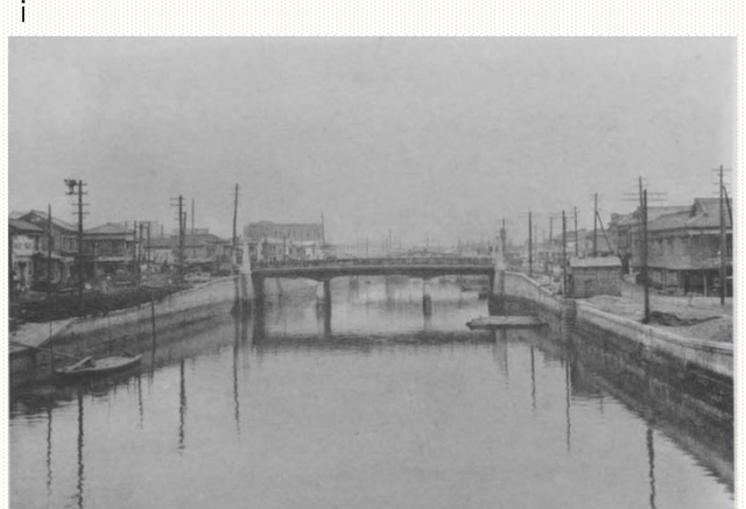
千秋橋の橋台築造後、この後に桁が架けられた
(大正15年4月竣工)



阪東橋の新設工事状況（大正15年10月竣工）



震災直後、奥に旧武蔵橋が確認できる



復興事業で架け替えられた武蔵橋（昭和3年1月29日竣工）



横浜橋（撮影時期不詳）

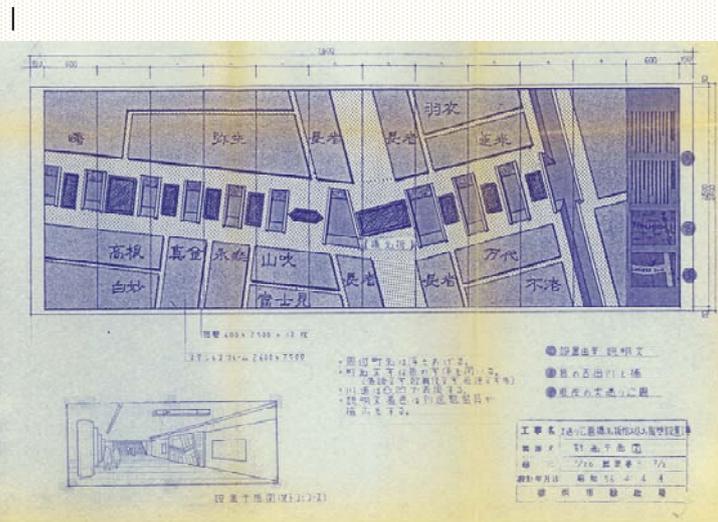


廃止前の山吹橋

引用 f,g：東京大学社会基盤図書館所蔵、h,i：橋梁課所蔵
j：横浜市史資料室[編・発行]、「昭和の横浜」、2009年6月2日
k：公有水面の占用に関する施設の概要、橋梁課所蔵

4 後世への伝承～橋の詩～

吉田川・新吉田川に架かっていた橋梁は全て廃止されてしまいましたが、当時をしのぶ市民の間から歴史的な文化遺産として、区役所等が保存していた（当時）橋名板を利用した記念碑を製作してほしいという声が寄せられました。これを受け、市緑政局が中心となりレリーフした陶板に橋名板を組み込んだモニュメントが製作され、伊勢佐木長者町駅前の連絡通路壁面に昭和56年（1981）に設置されました。モニュメントのタイトルは「橋の詩（はしのうた）」と言い、陶板には吉田川・新吉田川周辺の町名のほか、明治末期、昭和初期、戦後の吉田川・新吉田川の写真も載っており、当時をしのんでいます。



陶板の計画平面図

m



保管されていた橋名板抜粋（ex：権三橋）

n



「橋の詩」遠望、明るく表示されている橋名板はレプリカと思われる

o



「橋の詩」を近接抜粋。千秋橋上は横浜市電が運行していたことが確認できる

5 最後に

今回は、吉田川・新吉田川やそこに架けられた橋について紹介しましたが、それらが市民の生活に欠かせないものだったことが「橋の詩」を通じて感じる事ができたかと思えます。

「橋の詩」のほかにも、橋の歴史を紹介している掲示物やモニュメントはありますので、これを機に調べてみて、現地へ足を運んでみてはいかがでしょうか。

p



新富士見川にあった橋をしのばせる碑